



第43号

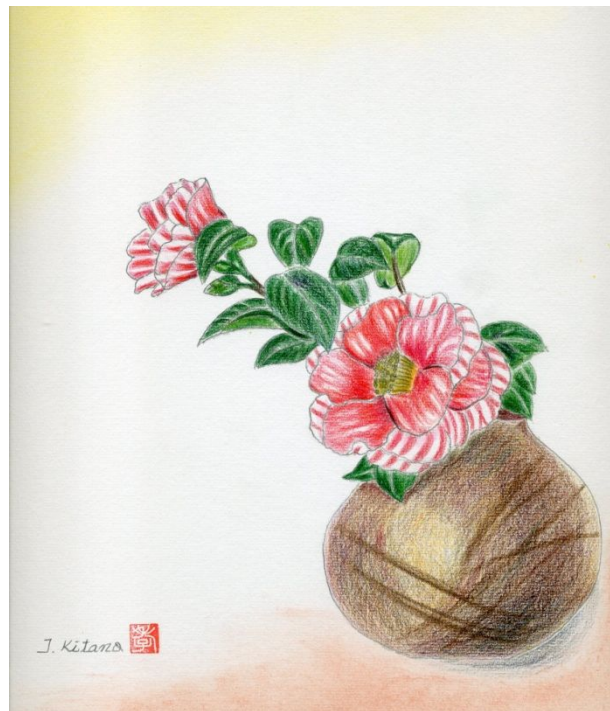
みせん

瀬戸内海国立公園
宮島地区パーク
ボランティアの会

発行日
2011年 3月1日

目次

- | | | | |
|-----|----------------|-----|---------------------------|
| P 2 | PV の会臨時総会・役員改選 | P 7 | くじゅう PV と交流・研修旅行 |
| P 3 | 新役員・幹事抱負 | P 8 | 11月の公募観察会・親子観察会
入浜定点観測 |
| P 4 | 宮島エコツアー | P 9 | 入浜観測、整備 10年前の PV
編集後記 |
| P 5 | 宮島二流記(その8) | | |
| P 6 | 極寒の野鳥観察会 | | |



色鉛筆画「つばきと備前焼」

60の手習いとでも云うべきか?こんな色鉛筆を使って遊びだした。出来ばえは抜きにして、自分なりに満足してればよいものを、とうとう、「みせん」の表紙を飾ることと相成った。宮島に直接関係する絵柄ではないが、時期的に丁度いいかなと「つばきと備前焼」をチョイスしてみた。

60色の色鉛筆から複数の色を塗り重ねた結果、若干、備前焼にしては濃くなりすぎたのが残念! (絵・文) 北野 孝幸

4月9日(土) 総会

平成23年度PVの会・定期総会を下記要領で開催しますので、会員の皆様、多数ご出席ください

日時 4月9日(土) 10:00~12:00
(受付 9:30~)

場所 杉之浦公民館大研修室

欠席の人は委任状を提出してください
午後から小なきり浜の観察会・清掃活動を実施します

PVの会臨時総会・役員改選

PVの会では昨年12月4日(土)宮島市民センターに於いて、部会打ち合わせ・臨時総会を開催しました。出席会員31名、委任状提出者11名でした。

出席会員 足立 池田 井上 小方ペア 小川 奥田 金山 川崎 北野 五石
 小林ペア 佐伯 坂本 佐渡 佐藤(佐) 佐藤(庸) 島 末原 田中 田淵
 中道 野呂田 平田 舛田 松田 丸平 宮崎 村上 横路
 環境省 桑原自然保護官 西野自然保護官 大高下 AR

1. 臨時総会関連

(1)9:30 全体打ち合わせ

(2)10:00 部会打ち合わせ

部会ごとに集まり、来年度の活動計画の意見交換、任期満了に伴う幹事の選出を行った。新たに観察部会から北野さん、環境整備部会から佐藤(佐)さんが選出され、幹事は14名の体制となりました。

(3)10:30 臨時幹事会

幹事の中から互選で、任期満了に伴う新役員、監査員の選出を行なった。新たに副会長に舛田さん、観察部会長に小林(勗)さん、監査員に川崎さんが選ばれました。

(4)11:00 臨時総会

村上会長、自然保護官からの挨拶があり、次いで議事に入り各部会長から今までの活動状況についての報告があった。

ついで役員改選については、総会前の臨時幹事会で互選された原案通り、異議なく承認されました。

「幹事」

観察部会 小林 勗(部会長:新任)

小川 加代 北野 孝幸(新任)

中道 勉 舛田 祐子 村上 光春

環境整備部会 末原 義秋(部会長)

川崎 昭壽 佐藤 佐十四(新任)

佐藤 庸夫 島 千代喜 平田 広三郎

広報部会 足立 清(部会長) 岩崎 義一

「役員」

会長 村上 光春

副会長 末原 義秋 舛田 祐子(新任)

会計 島 千代喜

「監査員」 川崎 昭壽(新任)

任期は役員・幹事・監査員とも2年です。
 新役員・幹事の挨拶文は次ページに掲載

2. 研修会(主催:広報部会)

13:00~16:00 同じ会場

宮島消防署の2名の方を講師に招き、救命処置の座学講義と実習(2班)を受講した。終了後 全員に「普通救命講習」の受講終了証が交付された。

3. 年末懇親会

環境省の方を交え、有志18名あまり、恒例の「山村茶屋」にて牡蠣バーベキューで年忘れの懇親を図った。

(平田 広三郎)

救命処置について

突然、心臓や呼吸が止まってしまった時、こんな人の命を救うために、そばに居合わせた人ができる応急手当のことを「救命処置」といいます。しかし 春以降対応が改訂されますので、再確認しておきます。

反応を確認する。

119番通報とAEDの手配を依頼

気道の確保と呼吸の確認

胸骨圧迫(心臓マッサージ)30回と人工呼吸2回を繰り返す。圧迫は強く、速く(約100回/分)

AED到着 電源をいれる。音声の指示通りに実施 を繰り返す。以上

「みせん」44号発行予定

発行日 6月1日

原稿締切 4月末日

皆さんの投稿をお待ちしています

よろしく 新役員・幹事の抱負

会長 村上 光春

PV 活動も早や 10 年が経ち、国際生物多様性年も新たな 10 年です。再任いただいた新たな 2 年間、心もまた新たに、宮島の素晴らしい自然の保護と活用に微力を尽くしたいと思います。

副会長・環境整備部会長 末原 義秋

優れた宮島の歴史や自然の景観を保護しながら環境の整備や美化活動に努めたいと思います。

副会長 舩田 裕子（新任）

副会長をお引き受けすることになりました。これまでと同じく皆さまのご協力に感謝しながら元気に活動を行いたいと、気持ちを新たにしています。よろしくお願いします。

観察部会長 小林 勲（新任）

歴史・植物観察・環境整備ありとあらゆる分野に活動している PV の会で観察部会長という大役を引き受け、身の引き締まる思いです。ご指導とご協力のほどよろしくお願ひいたします。

広報部会長 足立 清

引き続き広報部会長を務めます。PV の活動がより楽しく、より有益なものになるように努力したいと思います。

会計 島 千代喜

引き続き会計をすることになりました。地元の会員として情報収集と会の運営がスムーズにいくようサポートしたいと思います。

監査員 川崎 昭壽（新任）

知識・経験・人格ともに素晴らしい会員の背中をみながら、自分の存在意義を自問自答しているうちに、いつの間にか 4 年。飛び込んできた大役。よろしくご指導のほどを。

幹事 岩崎 義一

他部門との連携（広工大・観音台公民館）協力活動に尽力していきたい。昨年は 10 周年活動に力を注いで、本来の町石調査が疎かになっていたのでは、再度取り組んでいきたい。

幹事 小川 加代

宮島で、目に見えるものに感動すると同時に、地球 46 億年の営みの一片にでも思いを寄せられたら、よいと思います。

幹事 北野 孝幸（新任）

今後も当会の活動はおおいに重要視されてくることと思います。このような時期での幹事という大役につき、皆様方に満足いただけることが出来るか疑問ではありますが、邁進したいと思います。

幹事 佐藤 佐十四（新任）

昨年入会させて頂き、まだ分からない事や知らない事ばかりですが、四季折々の美しい自然と歴史的遺産に恵まれた宮島の環境整備に少しでも役に立ちたいと思います。

幹事 佐藤 庸夫

毎回の行事、いつも、新鮮な気持ちで参加し、挑戦したい。宮島は海・山・歴史・寺社・人物・食べ物等々、日本の縮図のような小さな島。PV ではいつも元気もらっています。

幹事 中道 勉

昨年当会の 10 周年記念事業で「新宮島八景」が選定されたことは、喜ばしいことでした。公募観察会の案内や活動記録を配布する事業など、微力ながらも以前にも増して会の発展に力を尽くす所存です。

幹事 平田 広三郎

幹事は 2 期目です。動植物は書物に頼るだけで、からっきしだめなので、環境整備部会の行事を中心とさせていただきます。



平成 23 年度役員・幹事

宮島エコツアー

大聖院登山道～弥山～紅葉谷

日時 12月22日(水) 9:00 ~ 16:00
 参加者 岩崎 金山 北野 中道 平田 松田
 村上 横路 西野保護官 大高下 AR

環境省の事業「瀬戸内海におけるエコツアーの検討」の一環として「宮島でのエコツアー」のプログラム開発構築に広島工業大学・上嶋教授が取り組んでおられます。このたび宮島の事を知り尽くしている PV の会に協力要請があった。

12/22 実施の試行ツアーは、PV 8 名・環境省 2 名を含め広工大生・関係機関など総勢 22 名の大人数となった。昨年 11 月の「海域」に続いて、今回は「陸域---登山しながら原始林の自然や島の文化を学ぶ陸コース」。大聖院登山道から弥山山頂・紅葉谷公園へと下った。PV 各会員がそれぞれの得意分野で、歴史や文化、災害による自然の変遷、野鳥や植物を解説調査しながら、エコツアー構築のための題材を提供した。

広島工業大学では今回の試行ツアーを基に今後の課題整理や施策に反映できるよう纏めていきたいとのことである。今後も当会に種々の協力が求められてくるので、積極的に参画していきたい。(岩崎 義一)

エコツアーにおける 野鳥観察の記録

鳥類目録 14 種

(12/22 記録された順)

メジロ：コース全体で多い
 ヒヨドリ：コース全体で多い
 ハシボソガラス：大聖院付近
 トビ：高空
 ハシブトガラス：コース全体
 アオゲラ：林冠上空で声
 コゲラ：林内で声
 エナガ：霊火堂などで少数構成の単独群れ
 ルリビタキ：霊火堂の広場下
 シロハラ：紅葉谷公園あたり(声)



霊火堂前での報告会

ツグミ：紅葉谷公園あたり(声)
 ヤマガラ：紅葉谷公園あたりで単独群れ
 シメ：紅葉谷公園あたり(声)
 ウグイス：紅葉谷公園あたり(声)以上

エコツアーの題材としての鳥類について

確認種は、主に森林性の留鳥+冬鳥で構成された。目視で確認できた種は、数の多い種、開けたところに出てくる種など限定的で、大半は声による確認。林間のコースのため、出現は「瞬く間」という部分もあり、鳥を大勢で観察する、声に耳を傾けるとするのが難しく感じた。声も、今の初冬の時期は地鳴き(地味で短い)が中心となるため、気付かれにくい。

冬場に見やすいのは、地上を歩いて餌を探し回る大型のツグミ類が筆頭かと思います。声も種ごとに特徴的。カラ類などの小鳥の混群もうまく遭遇すればいい題材になります。これらは地上部や木々が見渡せる公園付近が見つけやすいでしょう。また冬の楽しみと言えば、冬鳥のホオジロ類(ミヤマホジロやカシラダカ)、アトリ類(マヒワ、ウソ、マシコ類、イスカなど)などのきれいどころですが、今回は残念ながら見れませんでした。これらは草の実、木の実食なので、やはりハギやカエデ、モミなどが目に付く公園付近が有利かと思われます。

代表的なものについて、事前に特徴を説明して意識付けしておいて道中で確認する、感じてもらい、最後に講評でフォローというのがいいかもしれません。(松田 賢)

宮島二流記 (その8)

平田 広三郎

Q8:「宮島は遍路の島だったでしょうか？」

本題のきっかけは、文献を読めば読むほど、宮島には四国八十八箇所巡りに点在する事象と類似点があるからです。

A8:「そうだと思います。島の大・小があるとしても、ともに修行の島だったからだとも言えるからです。」

遍路については、(その6):「干満岩」で触れていますが、もう少し詳しく述べてみます。遍路と言う文字は江戸時代の初めは辺路も遍路も使い、元禄年間(1688~1704)ごろに遍路に変わっています。読み方としては室町時代にはすでに辺路を「ヘンロ」と読まれていたようです。四国辺路の祖形は、みすぼらしいぼろぼろの衣をまとい物乞いのような姿をしていた山岳修行者達が四国の海岸や付近の山を主な修行地(辺地:へじ)とし、やがて 辺地と辺地との間の海浜と山を歩き繋ぐようになったものを言うのです。

また辺地における修行は、修験道の始まりの一つと位置づけられ、古代の辺地信仰を含んだ辺路と修験道の関わりが折り重なるようになって成立します。さらに修験道は、弘法大師信仰(遍路)と並行して山を中心(山岳信仰)に生き続け、お互いに内包しあっていきます。それがまた遍路と山岳信仰の結びつきなのです。

四国辺路成立の歴史は、多くの説が七〇年ごろ(和銅年間)に愛媛の石鎚山で、修験道の開祖と伝えられる『役行者 小角(えんのぎょうじゃ おずぬ)』(634~702年または665~725年)が修行したことを起源としています。その後 730年ごろ(天平年間)には法相宗の行基が四国を巡錫しており、空海(774~835)は「三教指帰(24歳の時に著した自伝の改訂版で、儒教・道教・仏教の優劣を論ずる話)」にあるように、790年ごろ(延暦年間)に四国で修行に入り、815年(弘仁年間)に四国遍路を開いたと考えられます。

さて四国遍路と宮島との類似点のことで、四国遍路 23 番薬王寺から室戸の 24 番最御崎寺(ほつみさきじ)の間すなわち阿波より土佐にいたる 80 キロぐらいの間には何番という札所はないのに、弘法大師の霊水信仰の「水大師」と「鯖大師」と言う霊場への、波打ち際にある古い辺路の道「八坂八浜」のことなのです。海水が迫り波が打ち寄せる岬があれば、砂浜を歩いていたものが通れなくなり山の坂を越えます、それが一坂で一浜です。また超えると、二坂で二浜となるというふうに八つあるからです。それが宮島では、「芸備国郡誌・厳島に、・・・島の廻りに八浦があり、その中、七浦には小社がある。・・・」や「安芸の宮島廻れば七里、浦は七浦、七えびす」と言われているのに関連していると思えるからです。今も各浦に神社が祀ってありますが、古には小さな祠(ほこら)があって、修験者達が祈りながら歩いたと思っても不思議ではないからです。宮島は、原始林や革籠崎のような断崖絶壁の岬のほか風化花こう岩(マサ土)に覆われた砂浜があり、絶好の修行地即ち遍路道だったと思われます。

遍路修行は、四国全体を廻る四国八十八箇所巡り、西国三十三所観音霊場巡りや紀州熊野の大辺路などの大行道、札所と札所との往復・宮島の島めぐりなどの中行道、お堂の廻り数百メートルを回る小行道などの段階がありますが、むしろ宮島に限らず小さい島の辺路修行の方が四国遍路よりも古くからあったのではないとも言われています。

その他の類似点としては、『空海伝説』『干満石伝説』『求聞持法』『龍燈伝説』『蓬萊伝説』『聖(ひじり)伝説』等が挙げられますが、文中の二重カッコの事柄については号を改めて述べてみます。

今回は幕間として、今までの号の補足と新しい知見を説明します。

(参考文献)

- ・「四国遍路の寺 上・下」 五来 重
角川ソフィア文庫
- ・「四国遍路を考える」 真鍋 俊照
日本放送出版協会

極寒の 岩国で野鳥観察会

日時 1月29日 9:30~15:30

(参加者) 足立 北野 小林ペア 近藤

佐伯 末原 中道 野呂田 平田 舂田

大好評であった昨年に引き続き今年も佐伯農園にお邪魔した。今年は格別に寒い中、9時半に岩国、川下地区、楠巨木群の林立する公園の駐車場に11名が集合した。

参加者点呼してると頭上でけたたましい鳴声、アオサギが数羽戯れている。というより喧嘩しているようだ。クスノキの先端部はアオサギの営巣地となっているらしく、雄が、自らの子孫繁栄をかけて争っているのだろうか？門前川沿いに目を向けると昨年よりは野鳥たちの姿が少ないように見受けられる。それでも、コガモ・アオサギ・マガモ・コチドリ・イソシギ・セグロセキレイ・カウウ・トビ・ハクセキレイ・ツグミ・コサギ・ムクドリ姿を見ることができた。

今津川沿いを観察しながら歩くと私たちが来るのを待っていたのか、ジョウビタキが電線に止まって離れない。メジロは朝飯だろうか木の実にたかっている。ヤマガラ、ヒヨドリも私らも見てくださいといったかのようにやってきた。

さらに道路を渡って川下に向うと堰の上に置物のように見えるカウウが風上に向かって整然と並んでいる。魚が来るのを待っているのだろうか？その横にはセグロカモメがおこぼれ頂戴しようと思っているのか？横取りし

ようとしているのか？離れずにいた。その上流ではキンクロハジロが先に餌にありつこうとしているのかさかんに潜っている。

堰の下流ではオカヨシガモ・ハシビロガモが戯れている。水際に一羽ちょこちょこ歩く鳥を見かける。岩国野鳥観察の沢田さんが合流し、「イカルチドリですよ」と説明してくれる。土と同化してかのような色合いで、しかも遠めのため見づらく、「どれ？」「どれ？」の声多し。でも見つけるとみんな感嘆！

11時半に駐車場に戻り、車で移動。途中、門前川沿いで観察するも昨年は1000羽近く見たの声あるも、今年は半分くらいで少ないようだ。種類もヒドリガモ・マガモ・カウウ・アオサギ・セグロカモメと少ないのが気になる。

佐伯農園ではみかん狩り

昼食は昨年同様、佐伯農園だが、食後のデザートに農園内の柑橘類を食べ放題、晩白柚、パールカン、紅八朔などたくさんお土産までいただき、大変御世話になりました。

昼食後、野鳥の宝庫といわれる尾津の蓮田に移動。今年の蓮田はハスがまだ収穫されていないのか枯れた状態の茎が土の中から生えているようだ。おかげで、その中に入り込んだ野鳥は全く見えない。収穫のすんだ蓮田の水廻りを凝視すると、緑っぱい羽に白い腹のアクセント、冠毛が特徴のタゲリや冠毛のないケリ、クチバシが長いタシギやクサシギなどが見付き、寒さも忘れる思いであった。

その後、一羽のツクシガモが蓮田の中に降りてきた。昨年より、より近い場所で観察することができたことはラッキーだった。

しかし、猛禽類はトビ、ミサゴしか目に入らず、目的のチョウゲンボウは目に入らなかった。

このあと、河口に廻ってみると多くのカルガモやカンムリカイツブリが4羽ノンビリとお昼寝しているのか、海上に漂っていた。

最後に岩国在住の佐伯さんや沢田さんにお礼して来年の再会を楽しみに筆をおきます。

(北野 孝幸)



当日の参加者一同

くじゅうPVと交流

会員研修親睦旅行 小林 みどり

(平成 23 年 2 月 5 ~ 6 日)

今回の参加者 10 名、宮島口を 8 時にマイクロバスで出発、暖かい日和に恵まれ、最初に宗像大社へ向かった。

日本各地の宗像神社と巖島神社、6400 社の総本宮、ここは三女神を別々の社に祀っていて、朝鮮との中間である 60km 沖合の沖ノ島（ここは現代でも女人禁制）・・・沖津宮・・・田心姫命（タゴリ姫神）、10km 沖合の大島・・・中津宮・・・湍津姫命（タギツ姫神）、宗像にある辺津宮・・・市杵島姫命（イチキシマ姫神）

この三宮の総称が宗像大社。大陸文化や交易の入口で交通の盛んな所これが海運の神様の由縁。樹齢 550 年の榎の木を御神木に大変威厳のある社と社叢でした。

日本一大きな注連縄のある神社、宮地獄神社（ミヤジタケ）ここは注連縄と 3m 位の鈴と同じく太鼓が日本一大きいとのこと、この神社は神功皇后が朝鮮征伐の時宮地岳の頂上で祈願したのが始まりで、ここでは神紋の三階松が焼印された松ヶ枝餅が名物です。

久住高原の深部、薄く雪化粧した九重連山の麓“レゾネイトクラブくじゅう”は優しいもてなしと美しい星空、茶褐色の温泉で自然の中にほっこり包まれていました。

翌朝残雪の中、9 時にくじゅう地区 PV との交流会のあるビジターセンターへ。

7 ~ 8 人の方とまずはタデ原湿原の観察会でススキと雪野原、動物の足跡が少しありました。星生山の湯けむりを気にしながら回廊を一回りして、16 人のメンバーと交流会。

くじゅう地区 PV は「九重の自然を守る会」を母体とし設立して 20 年、ラムサール条約に登録されて 5 年、会員数は宮島と同じ、ビジターセンターでは毎週土、日、年 80 回の観察会。「九重の自然を守る会」の歴史は 50 年で会員数 300 人、年齢も 81 歳までと幅広く色々層が厚いです。

集まって下さった人々の中には戦時中広島幼年学校に在籍し 8 月 6 日は県北へ疎開していて原爆を免れた人、氷の祭典のために芸北からダンプで雪を運んだ人、総領町のセツブソウを毎年見に来る人など多彩、宮島に来た事のない人は 5 人で、近々宮島に行く予定の人もいました。

地元の方は 2 人だけで他は福岡、太宰府、久留米など、北九州の人は近くに別荘を建てて土日に備えているとか、車で 3 ~ 4 時間かけて来る人が 16 人中 11 人。

若い山本自然保護官は今、北海道の杉本保護官や広島勤務の保護官もよくご存知だそうです。こちらでは外来種や不法採取に手を焼いているとの事でした。

和やかな交流会を 11 時に終え、夢の吊り橋に向います。川底からの高さ、長さ、共に日本一との事でそばには 4 本の滝があり、その内 2 本は日本百名瀑に入っています。

日本一を沢山目にする研修でした。最後の宇佐神宮は全国 4 万余りの八幡社の総本宮で本殿は一之御殿に応神天皇、二之御殿に比売大神（三女神の事）、三之御殿に神功皇后。

「二礼四拍一礼」がこの拝礼作法で、境内には寺院の跡も多く、樹齢 800 年の大きな楠の御神木や、一位檜の大木が数え切れないほどあり荘厳な社でした。

今回の交流会を通じて九州の自然の雄大さを感じることが出来ました。計画からお世話いただいた舛田さん有難うございました。

(参加者) 足立 奥田 小林(み) 佐藤(庸)
島 中道 野呂田 平田 舛田 村上



くじゅう地区 PV と一緒に残雪の湿原観察

公募観察会(自然と歴史)

弥山山麓遊歩道コース

親子観察会

11月20日(土)晴、棧橋前・藤の棚に集合(参加者)公募参加32名、会員参加者名は前号(42号)に記載につき省略

午前9時より受付。6班に分ける。午前は歴史散策で中道さんと私で2手に分かれ「山辺の古径」を案内する。私は子供の家族を中心に担当。いかに小学生向きに話すか、親も混じっておりや、苦労した。

棧橋前の誓真さんの井戸、標高28m・巖島合戦の要害山、山辺の入り口の不動堂・願いの叶う伝説の大きな石、延命地藏でお地藏さんの話等々。もっと、ゆっくりと話せばよかったと少し後悔。また、全員を集めるのに苦労。午後の植物観察のため3つの班を一つの団体とした為うまくまとまらず終わり頃には歴史散策と植物観察が混在してしまったように思う。まだまだ、私の表現力の足りなさを反省。

千畳閣での小林さんの巖島合戦の紙芝居、あの千畳敷きの板敷に座り荘厳で解り易い口調、皆感激のはず。よかったです。ただ絵が反射して場所によっては光って見えませんでした。

昼食の後は、本来の6班に分かれて植物観察。所用があり、午後は失礼させていただきました。(佐藤 庸夫)



千畳閣での紙芝居

入浜定点観測

平成22年11月27日(土) 9:45~12:00

気温 11 天候 晴 満潮 13:37 331 cm

参加者 小林(勗)平野 舛田 松田 三次
村上 横路(後日)六重部

【水質調査】水路の底面は濡れていたが、池の水位は大幅に下がり山側は測定できなかった。池の塩分濃度は前回とほぼ同じだった。測定結果(11/27)下表のとおり。

	A	B	中央	山水	海水
PH	7.6	7.6	7.8	7.2	8.0
塩分	2.5	2.4	2.5	0	2.7
COD	5	6	6	4	2

【水生生物】入浜池での11月後半の水生生物調査は初めてです。池の周りを飛び回るトンボは少なくなり、アキアカネとタイリクアカネのみが池端の陽だまりで活動していました。ヤゴは採集されず、スジエビやヌマエビ類に加えモエビの仲間が確認されました。池には海藻のミルが数株確認されるなど、今回も海水の影響が見えました。(松田 賢)

【植物観察】11/30(火)に訪れて調査。何時もは入浜池を反時計回りに観察していましたが、今回は時計回りに観察したことにより、観る方向など視線が変わったことから、カナメモチ、キュウイ、スモモ、タマミズキ、ツルウメモドキ、ツルグミ、ナツミカン、ヒノキバヤドリギ、マルバウツギ、ミツバアケビ、モッコクの11種を確認。このうちの数種は宮島には普通にあり今まで気付かなかったのが不思議とも思える種です。

(六重部 篤志)

入浜定点観測

日時 平成23年1月22日(土)9:30~13:30

気温 5 天候 晴 満潮 11:33 368 cm

参加者 井上 小方(嗣) 小川 川崎
北野 五石 小林ペア 佐伯 佐藤佐
末原 中道 平田 平野 舛田 丸平
村上 横路 六重部

【水質調査】池の水位は11月より更に低く中央あたりに水があるのみです。A・B地点の測定は杭より3~1.5m中央寄りで行い、A地点では氷が張っていました。周辺は割れ目が出るほど干上がり、野鳥やシカの足跡がくっきり残り足跡観察ができます。昼食時、カワセミが美しい姿を見せ、何度もダイビングして池の魚を捕食していました。

下表は1/22の測定結果（ 舛田 祐子 ）

	A	B	中央	山水	海水
PH	8.7	9.0	8.7	7.8	8.7
塩分	1.8	1.8	1.4	0	2.5
COD	13	13	13	5	

【植物観察】落葉樹はすっかり葉を落とし、冬枯れ状態で常緑樹がよく目立ちます。昨秋にはマンリョウやシロダモがたくさん赤い実をつけていましたが、もう殆ど見られません。鳥たちの餌になったのでしょうか。今回は、当然に記録されていると思っていたシャシャンボ、ナナミノキの2種を追記。これまでに確認した種のリストと照合しながらの調査の必要性を痛感したところです。

（ 六重部 篤志 ）

【水路整備など維持管理作業】

池の奥に押し上げられたカキ筏の除去作業と観察通路の枝払い作業を実施しました。竹の除去作業は、竹に針金が巻きついていたので、竹を小さく切り刻んで除去する苦難の作業でしたが、大勢の人がいたからこそ出来た作業だったと思います。

（ 末原 義秋 ）



カキ筏の除去作業

10年前のPV

（平成13年3月発行「みせん」第3号から）

砲台跡を探訪 11月25日

岡崎 環 先生が講師で「軍と宮島」の話を聞き、その後鷹ノ巣砲台跡を探訪しました。参加者30名、翌年から毎年5月ごろ一帯を清掃、整備するようになりました

弥山サル・シカ生態観察 12月9日

JPR行事で18名参加、金井塚さんの案内で子ども達と一緒に弥山に登り、けもの道にも入りました。

自然観察会・登山道清掃 1月13日

19名参加、中道さんの案内で弥山史跡巡りをし、各自ポリ袋を持って登山道のゴミ拾い、清掃をしました

PVの会役員決まる 11月25日

臨時総会で最初の役員が決まりました
会長 横山 忠司 副会長 中川 正 足立 清
会計 末原 義秋 監査員 平山 美知子

編集後記

2月27日の公募観察会は50名以上の参加者で大盛況であったが、殆どの方がリピーターで特に植物に詳しい人が多かった。これからの広がりを考え、PVのサポーターを増やすには、初心者向けの観察会を企画することも必要ではないかと思った。（ 足立 ）

瀬戸内海国立公園

宮島地区パークボランティアの会

事務局 環境省 中国四国地方

環境事務所 広島事務所

（〒730-0012）

広島市中区上八丁堀6番30号

広島合同庁舎3号館1階

TEL(082)223-7450・FAX(082)211-0455

宮島詰所（宮島栈橋2F）

（〒739-0505）廿日市市宮島町1162-18

TEL/FAX (0829)40-2520